

声の限りに！ ～運動会・体育祭～

爽やかな日差しのもと、5月～6月に市内の小中学校で運動会・体育祭が開催されました。

悪天候のため、予備日での実施となった学校もありましたが、当日、子どもたちの元気な声がグラウンドに響き渡り、富津の子どもたちが活躍する姿を見ることができました。

地域や保護者の方々から温かい声援を受け、思い出に残る1日になりました。

大佐和中：
応援合戦



青堀小：
綱引き



問 学校教育課学務係 ☎0439-80-1339

大佐和中学校屋内運動場を改築しています

大佐和中学校屋内運動場改築事業として、令和6年12月から新たな屋内運動場の建設工事を実施しています。

令和7年6月17日（火）時点、2階の壁を造るため足場を組んでおり、その後に鉄筋を組み、壁を作っていきます。

なお、工事の進捗状況は富津市ホームページにて順次掲載していきますのでご覧ください。



問 教育総務課施設係 ☎0439-80-1348

新しい学校給食共同調理場を記念して特別な献立を提供！

令和6年12月に完成した新共同調理場を記念し、令和7年4月23日（水）に富津市で育てられた・作られた食材を使用した特別な献立を提供しました。

本年度も安全・安心でおいしい給食づくりに努めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

かずさ和牛の牛丼
富津市押切で育てられた「かずさ
和牛」をふんだんに使いました。味
つけに使ったしょうゆは、佐貴の宮
醤油さんの「たましょうゆ」です。

のこぎり山バウムクーヘン
金谷の見波亭さんのバウム
クーヘンです。



富津市産コシヒカリのごはん
富津市産のコシヒカリを使用し
たごはんです。

富津産ばらのりのみそ汁
富津の海でとれた「ばらのり」
を使った具だくさんのみそ汁です。

問 学校教育課給食係 ☎0439-80-1343



ふつつ教育かわら版
教育からまちづくりへ

令和7年7月発行
第65号
発行 富津市教育委員会

小学校	8校
児童数	1366名
中学校	3校
生徒数	778名
(令和7年6月1日現在)	

スポーツイベントニュース

6月に行われたスポーツイベントを紹介します！

〇県民の日記念グラウンド・ゴルフ大会、バドミントン大会

例年行われているグラウンド・ゴルフとバドミントン種目のスポーツ大会が、以下の日程で開催されました。

第42回県民の日記念グラウンド・ゴルフ大会

開催日：6月7日（土） 会場：市民ふれあい公園多目的広場

天気に恵まれ、絶好のグラウンド・ゴルフ日和のなか、皆さん真剣にプレーをしていました。



第42回県民の日記念バドミントン大会

開催日：6月8日（日） 会場：富津市総合社会体育館

小学生も中学生も選手全員が上位を目指して、全力を尽くして試合に臨んでいる様子がうかがえました。



7月6日は鶴岡の浅間神社で獅子が舞う！（浅間神社の羯鼓舞）

鶴岡の浅間神社では毎年7月最初の日曜日に獅子が舞う「羯鼓舞（かっこまい）」が奉納されます。

羯鼓舞は古くは雨乞いのための舞で、現在は神社に奉納されています。舞は明治時代よりも前から、鶴岡地区の長男が獅子役を演じ繋ぐことで伝えられてきました。途中で何度か途絶えています。昭和50（1975）年に4回目の再興を果たして以来、現在まで続いています。

3匹の獅子による獅子舞の形は関東各地に伝えられていますが、「羯鼓舞」という腰に括り付けられた小太鼓に主眼を置く呼称は、安房・上総地域特有のもので、本神社の羯鼓舞も当地域の習俗をよく示すとして、市の無形民俗文化財「鶴岡の羯鼓舞および用具」に指定されています。

羯鼓舞は雄獅子（オスのしし）2匹と雌獅子（メスのしし）1匹をササラというギロのような竹製の打楽器を持った4人の子供（ササラ役）が取り囲み行われます。獅子たちはお囃子に合わせて舞います。演目は全部で11曲ありますが、その中から「かしらがえしおどり」と「めじしかくし」をご紹介します。



ササラ

「かしらがえしおどり」は弓の中を獅子が通ろうとしながらもなかなか通れない_そんな様子が繰り広げられる舞です。獅子のお面は作り物なので表情が変わることはありませんが、そのうねるような舞姿から苦悩する獅子の気持ちを良く読み取ることができます。もしかしたら心は動きに宿るのかもしれないね。

「めじしかくし」ではダイナミックにお話が展開します。ササラ役たちが雌獅子を取り囲み、雄獅子から隠してしまいます。その様子はちょうど、雌獅子を鬼役にして、こどもの遊び「かごめかごめ」をしているように見えます。2匹の雄獅子は隠されてしまった雌獅子を探し求めます。そして雌獅子を見つけると今度は2匹同士で雌獅子を奪い合います。

日時

祭礼は7月6日（日）12:00～、羯鼓舞奉納は13:30～

場所

鶴岡474-1 浅間神社

当日、ご神体である浅間山を背負った神社境内は演者と見物客の熱気に包まれます。ちょっと足を運んでその雰囲気味わってみてはいかがでしょうか。



浅間神社本殿



かしらがえしおどり



めじしかくし

『子どもたちが怖いおはなしが好きなのはなんでだろう』

怖いお話を讀んだり聞いたりするとき、子どもたちは安全な環境で恐怖を「体験」しています。恐怖心と向き合い、それを乗り越えるという経験をすることで、これからの人生で訪れる困難に向き合う準備をしています。さらに、恐怖を克服したという満足感が得られるのです。

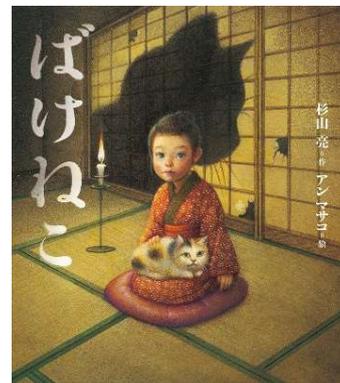
● どうしてこわいの？ フラン・ピンタデーラ／文 アナ・センデル／絵 星野由美／訳 偕成社



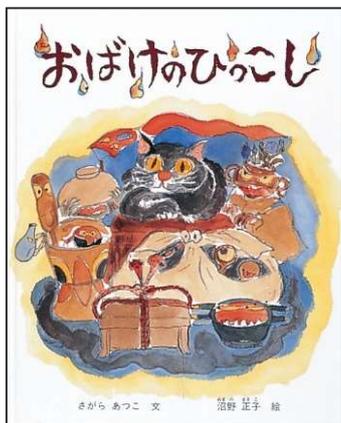
かみなりのあと、停電でまっ暗になった家でマックスはお父さんにたずねました。「おとうさん、こわいとおもったことある？」
「だれでもこわいっておもうことはあるよ」と、おとうさんは、いくつもの「こわい」について話してくれました。そしてなぜ怖いと感じるのか、そのわけを優しい口調で説明してくれました。巻末に「こわい」についての分析、解説もあります。

● ばけねこ 杉山 亮／作 アン マサコ／絵 ポプラ社

昔々、ある女の子が可愛がっていた猫のタマがいなくなりました。父親は、このあたりの年をとった猫は「ねこみみやま」に行って、最期の時をむかえる、そして、ねこみみやまに行った者はだれも帰ってこないの、山へ行っはいけないと言います。でも、どうしてもタマに会いたい女の子は山へと向かいました。森に入ると霧がわいて道が見えなくなりました。途方に暮れていると、遠くに家の灯りが見えました。そこでタマだったというおばあさんに会うことができましたが、ここには猫にされてしまうからすぐに帰るように、と言われました。女の子は信じませんでした。が…。



● おばけのひっこし さがらあつこ／文 沼野正子／絵 福音館書店



昔々、京の都に、家が狭くなって、もっと大きな家を探しているおとど（身分の高い男の人）がいました。まちなかをさがしているとちょっと古いが、おおきくてりっぱな空き家を見つけました。近所の者たちは、その家にはおばけが出るので住むのはやめるように言いました。ところがおとどはお付きの者を帰して、一晚その家で夜をあかすことにしました。“べんべろべえ”に“くびひょろりん” “めらめらぼう”と、おばけたちが次々と現れてはおとどをおどろかそうとします。ところが、おとどは全く怖がりません。とうとうおばけたちはある提案をします。

● まんじゅうこわい 川端誠／作 クレヨンハウス

町内のわかいもんがあつまって、それぞれじぶんのきれいな「いきもの」をいいあっていると、ある一人の男が「自分はまんじゅうが怖い」と言い出し、怖がって部屋にこもってしまいました。普段からこの男をいやなやつだと思っていた町のものはまんじゅうをかきあつめて、男がいる部屋へ運びこみました。案の定、男は怖い怖いと言いますが…。落語を元に描かれた絵本です。